

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

<https://doi.org/10.15017/458567>

出版情報 : 九州芸術工科大学, 2003, 博士 (芸術工学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

第1章 研究目的

母親への発達を促す援助を考える上で、それに影響する要因を明らかにする必要がある。第1部で述べたように、母親への発達とは、「母親意識」が出産後において経時的に肯定的に変容することとし、「母親意識」は、出産を経て母親となった女性について、健康な子育て行動を喚起し維持することの背景にある意識で、「母親がその子どもに対して抱く愛着を伴った特別の気持ちや、子育てにおいて生じる親の気持ち」と定義した。一方、これまでの先行研究では、父親も子どもと関わることにより母親と同様に親としての意識が形成・発達するとしている(Lamb,1976;Pedersen,1980;牧野,1982)。これらの研究では父親意識と母親意識とは全く同じものとしているわけではない。一方、父親の育児や役割に関する研究はみられるとはいえ、父親意識が母親意識とで相違するという報告はみあたらない(平山ら,1989/1990/1991;日暮ら,1992/1993/1994)。第1部において、母親意識を「子どもに対して抱く愛着を伴った特別の気持ちや子育てにおいて生じる親の気持ち」と定義したように、ここでは、父親意識も親意識として母親意識と同様であるとみなすこととした。

本論では「母親意識」の初産婦と経産婦による違いや、母親意識に関連する要因について検討した。

第2章 対象と調査方法

第1節 調査対象とその抽出

1996年10月～1997年3月までに京都府内の32施設で出産した3,495人の母親とその夫(父親)に対して、第1回目の質問紙調査を行った。調査票の配布は、母親には直接依頼したが、父親に対しては母親から手渡ししていただくようお願いした。回答が得られた母親1129人、父親1091人のうち母親と父親のペアは1091組であった。これらペアに対して縦断的調査の研究目的、プライバシーの保護、研究協力が任意であることなどを明記した依頼書を渡し、調